ハンドマイク街頭演説原稿例　ガザでのジェノサイドを許すな

二〇二三年十一月八日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　中東イスラエルがパレスチナのガザ地区に対して大規模な軍事攻撃をしています。十月七日以来のガザ地区での死亡者が１万人を超え、その４割以上が子どもだと伝えられています。国連のグテレス事務総長が「ガザの悪夢は人道的危機を超える人間性の危機だ」と発言し、人道的停戦が必要だと強調しています。この状況はまさにジェノサイド、集団殺害というべき非常事態です。

　日本共産党の志位委員長はこのたび、「ガザでのジェノサイドを許すな」と題する各国政府などへの要請を発表し、各国政府と国連などに届けました。要請では、各国政府と国際機関が「イスラエルはガザ攻撃を中止せよ」「即時停戦を」の一点で、緊急の行動を強めることを心から要請すると述べています。

　イスラエルがガザ地区に対してやろうとしている軍事攻撃は、国際条約で固く禁じられているジェノサイド、集団殺害となる危険性がきわめて高いものです。このような違法行為は断じて認められませんし、国際社会がこれを許すわけにはいかないものです。

　今回のガザ地区をめぐる危機の直接のきっかけは、イスラム組織ハマスによるイスラエルへの無差別攻撃です。民間人を無差別に傷つけ殺害する行為は国際法違反であり、日本共産党はハマスの行為を強く非難するとともに、人質をすぐに解放するよう求めます。とはいえ、イスラエルの行為は自衛の名を借りたジェノサイドであり、これも許されるものではありません。

　パレスチナをめぐる問題を解決するには、イスラエルが占領地からの撤退、パレスチナ国家の樹立、イスラエルとパレスチナ国家がお互いに認め合うという三つの原則をふまえた取り組みが必要です。日本政府はイスラエルともパレスチナとも関係があり、和平を実現するために力を発揮する条件を持っています。日本政府が直面するガザの危機打開と、中東和平の実現に力を尽くすことを、日本共産党は強く求めます。

　ところが岸田自公政権は、戦争の終結につながる停戦や休戦をイスラエルとパレスチナの両者に求めるという立場に立とうとしません。求めているのは、戦争を続ける前提の「戦闘休止」だけです。また、人道的休戦を求める国連決議にも賛成せず、採決を棄権しました。イスラエルの行動を容認するアメリカに追随するもので、大変に問題のある態度です。日本共産党は、直面するガザの危機の打開、戦争を終わらせて中東和平への道を進むために全力を尽くすことを、岸田政権にあらためて、強く求めるものです。

　この機会に日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）